

滝上町と地域総合交流協定を締結

9月10日(金)、16:00より滝上町 ホテル渓谷において、酪農学園大学と滝上町との地域総合交流協定の調印式が双方の関係者40名余が参加して行われ、本学からは学長以下関係者7名、学生14名が出席しました。

本学では2008年より滝上町の協力により、酪農学科1年生の実践酪農学の短期研修として酪農家での実習受入をお願いしていて、今年で3年目となります。今年も調印式翌日より学生が短期研修に入る予定です。

長屋栄一滝上町長は、「学生には、地域酪農家の仕事を体験してもらい、総合科学としての酪農を現場で学び、日頃教室で学んでいることを現場でいかしてほしい。また町の産業はさまざまな問題を抱えており、環境と調和した経営も必要である。今後、この協定により様々な分野で大学の指導をいただき、講師の派遣もお願いしたい。」と挨拶。

谷山弘行本学学長は「学生は自己学習の手段として、大学の教室や実験では学びきれない実社会との接点を持つ意味で自らの設計図を作るために酪農を経営するとはどういうことか実践の中で大いに学んでほしい。町には3年の歴史を持って進められているこの実践酪農学の研修受入にご協力をいただき、大変感謝している。

本学は健土健民思想により大学50年、短大60年の歴史を持ち、次年度より、農、食、環境、生命の分野に大学の組織機能を変えようとしているが、今後も活躍する若い人材を育てていきたい。」と挨拶しました。

調印式終了後、夕刻より調印式関係者および実践酪農学学生受入農家の方々との交流会が行われました。